

「RUNWAY2020」掲げ、ともに繁栄の道を歩もう 次世代型エネルギーサービスへの転換呼びかける

三愛石油グループの「2020 年特約店会議・賀詞交歓会」は 1 月 20 日、三愛オブリガス 3 社との合同により、帝国ホテル東京で開催されました。大久保宏次取締役ガス事業部長はこの中で、ガス事業部の 2020 年基本方針「RUNWAY2020」を打ち出し、「社会環境の変化に対応し、“次世代型エネルギーサービス”へと転換し、引き続き繁栄の道を歩もう」と呼びかけました。

L P ガス事業を取り巻く経営環境は、エネルギー利用形態の多様化、機器システムの高度化、エネルギー全面自由化に加え、LPWA 通信を利用した IoT や AI 技術を駆使した新たな仕組みが進んでいます。大久保取締役ガス事業部長は、「私たちが考える次世代型エネルギーサービスはこうした変化を前向きにとらえ、引き続き繁栄の道を切り拓く取り組みであり、三愛石油グループがこれまで提唱してきた総合エネルギーショップ、スマートエネルギーショップへの取り組みをさらに進化させたものにほかならない」と強調。

基本施策 1 「いまやるべきことを着実に実行」取り組みとして需要拡大、生涯顧客化、保安高度化、基本施策 2 「整えるべきことを充実させる」取り組みとしてサービスメニュー、安定供給・効率化、BCP・危機管理、そして基本施策 3 「これから必要なことを準備する」取り組みとして人材育成、省力化・合理化、IT 化促進を、特約店様とともに推進・展開していくことを明らかにしました。

■特約店会議・賀詞交歓会 3 部構成で進められ、第 1 部では大久保取締役ガス事業部長の新年あいさつと基本方針の発表、三愛オブリガス各社長（東日本・平林晃社長、中国・大野博史社長、九州・天野良信社長）による重点施策の発表、さらに永年取引表彰特約店様の紹介（表彰式・昼食会は同日、特約店会議に先立って実施）、住まいるキャンペーン 2019 の最優秀店表彰が行われました。第 2 部では記念講演（徳光和夫氏「マイクアラカルト」）、第 3 部の賀詞交歓会では役員等の紹介と塚原由紀夫社長の新年あいさつ、来賓の紹介とあいさつ、鏡開きが行われました。福岡三愛ガス会の西義則会長の発声で乾杯。神奈川三愛ガス会の牧野修三会長の中締めで盛会のうちに閉幕しました。

■大久保取締役ガス事業部長 自然災害が多発化・激甚化しており、私たちライフライン事業者は地域防災への協力と緊急時対応の体制充実とともに、自らも被災することを想定した BCP の立案が求められています。2020 年の基本方針としては、この BCP を含め 3 基本施策・9 重点活動に取り組んでいきます。RUNWAY とは、エネルギーサービスの新しい時代の栄光へと飛び立つための助走。引き続き、特約店様とともに華やかな繁栄の道を歩んでいきたいと考えています。

■塚原社長 前回の東京五輪では翌年の実質 GDP 成長率が半減しましたが、今回はむしろ働き方改革、人手不足の緩和になるかも。また、今冬は記録的な暖冬が心配されていますが、私たちにとって大事なことは、こうした中であってもこつこつと目の前の商売を積み重ねていくこと。L P ガスは環境にやさしく、分散型であり、災害時には大きな力になります。弊社は SDGs に取り組んでおり、L P ガス事業を通じて、今後とも皆様とともに社会的責任を果たしていく所存です。

■ガス事業部門「2020 年基本方針」

●スローガン 「RUNWAY2020」（ランウェイ 2020）

●基本方針 次世代型エネルギーサービスへ

●基本施策 1 「いまやるべきことを着実に実行」

- ◇需要拡大：住まいるキャンペーン／需要開拓・快適商材の提供
- ◇生涯顧客化：リフォーム事業支援／切替対策・オーナーサポート
- ◇保安高度化：保安ドック・保安研修／保安高度化プログラム
- 基本施策 2 「整えるべきことを充実させる」
- ◇サービスメニュー：料金・サービスメニュー／自由化対応ツール・システム
- ◇安定供給・効率化：配送合理化・拠点統合／アライアンス・アウトソーシング支援
- ◇BCP・危機管理：BCP マニュアル策定支援／災害管理体制の強化支援
- 基本施策 3 「これから必要なことを準備する」
- ◇人材育成：各種研修会・事例共有／後継者育成・事業承継支援
- ◇省力化・合理化：検針合理化・業務改善支援／効率化・外注支援
- ◇IT 化促進：販売管理システム更新支援・HP 作成・運営支援

L P ガス関係予算案、燃料備蓄推進 9.6 億円増

経済産業省は 2019 年 12 月 20 日、2020 年度予算案・2019 年度補正予算案を公表しました。総額は 373.7 億円で、燃料備蓄推進では、自然災害による長期停電を踏まえ、災害バルクに加えて自家発電機、また L P ガススタンドへの発電機の導入支援が盛り込まれました。

■流通関係（カッコ内は 2018 年度第 2 次補正+2019 年度当初予算）

●災害等対応能力等の強化

・自衛的な燃料備蓄の推進事業費補助金：41.1 億円（31.5 億円）

●取引適正化、流通合理化の推進 7.5 億円（7.5 億円）

・販売事業者指導支援事業：0.8 億円（0.8 億円）

・地域防災対応体制整備支援事業：1.6 億円（1.6 億円）

・構造改善推進事業：5.1 億円（5.1 億円）

●備蓄体制の強化 325.2 億円（356.4 億円）

・管理委託費：103.0 億円（103.0 億円）

・国債整理基金特別会計への繰入：194.0 億円（223.0 億円）

・その他：28.2 億円（30.4 億円）

■保安関係（同）：5.6 億円（6.5 億円）

Si コンロの累計出荷台数が 4,000 万台を突破

2008 年から販売が開始された「Si センサーコンロ」の出荷台数が 2019 年 11 月末で累計 4,000 万台を突破した、と（一社）日本ガス石油機器工業会が公表しました。Si コンロの普及とともに火災件数が減少し、2017 年にはピーク時の半数以下になりました。

■Si コンロ 全ての火口に、調理油過熱防止装置、立ち消え安全装置、消し忘れ消火機能を装備。これにより、コンロを原因とする火災件数の減少に貢献している。2008 年 4 月以降はグリルへの消し忘れ消火機能、2012 年 11 月以降はさらに炎あふれ防止機能または過熱防止装置の搭載が標準化され、グリルの安全高度化も進んでいる。

2 月プロパン、CP505.00 ドル、MB208.32 ドルに

2 月積み込み C P（サウジアラビア輸入 F O B 価格）は、プロパン（P）はトンあたり 505.00 ドル、ブタン（B）は 545.00 ドルにすると輸入元売各社に通知がありました。前月に比べ P は▲10.62%、▲60.00 ドル、B は▲7.63%、▲45.00 ドルの下降。

一方、米・モントベルビュー（MB）の 2 月適用プロパン価格（OPIS 社発表）は 208.32 ドルで、前月に比べ▲19.25%、▲49.65 ドルの下降となりました。

配信ご希望の特約店様はメールアドレスを下記 URL よりご登録ください。

※すでにご登録いただいている特約店様は不要です。

※ご不明な点は、オブリ担当セールスにご連絡ください。

【登録フォーム】<https://obbli.info/obbli/>

※パソコン、スマートフォンからご登録ください。



Obbli